

- ▶ 全体計画に位置付けた複数の規制改革が実現し、万博に向けた先端的サービスに活用されるなど、効果を発揮
- ▶ 一部の規制改革については、万博までの時間的制約やコスト面の課題等により、引き続き検討することとなったものや、実現困難となったものがある（実現困難なものについては、サービス内容を現行制度下で実現可能なものに変更する等により社会実装を進めた）
- ▶ 今後も、これまでの取組を検証・分析の上、引き続き取組を展開していく

実現した規制改革（18提案中 10件実現）

- | | |
|--|-----------------------------------|
| ○AIを活用した気象予報に係る気象予報士の設置基準の緩和 | ○万博に関する仮設建築物の建築に係る特例 |
| ○シャトルバスを活用した資材運搬（貨客混載） | ○万博に関する仮設工作物の設置に係る特例 |
| ○未承認医療機器等の一般向け展示 | ○ローカル 5 Gの広域的な利用（他者土地利用）に関する規制の緩和 |
| ○特定自動運行（自動運転走行（レベル 4）の運転者がいない状態での自動運転）の許可制度の創設 | ○外国人一般を診療対象とした二国間協定の対象国の拡大 |
| ○空飛ぶクルマの社会実装に向けた制度整備 | ○外国人企業活動促進事業に係る在留資格の変更に係る特例 |

今後も引き続き チャレンジする 規制改革

- ▶ ドローンの非接触充電のポート設置にかかる規制緩和
- ▶ 温泉利用型健康増進施設で医師の指示に基づき治療のため温泉療養を行った場合の医療費控除適用対象期間について、利用頻度等の条件緩和（所得税法）（ほか 4 件）

検討継続が 困難となった 規制改革

- ▶ 万博工事におけるシャトルバスの自動運転化（自動運転走行（レベル 2）を大型第一種免許で可能にする）
（理由）万博工事におけるシャトルバスの自動運転化未実施となったため
- ▶ 機能性表示食品における表示できる機能の拡大
（理由）大阪ヘルスケアパビリオンの展示体験において対象となるものがないため

大阪スーパーシティ全体計画の推進状況について（先端的サービス）

- ▶ 全体計画に位置付けられた各プロジェクトの先端的サービスについて、万博までに以下のとおり実施済みとなる予定。
一部のサービスについては、提案後の事情変化等により、事業内容を変更しているものがある。
- ▶ 今後、これらの成果を夢洲・うめきた2期はもとより、これら以外のエリアにおいても活かしていくことが重要。

夢洲コンストラクション

（15サービス中 実施：9件、概ね実施：4件、実施せず：2件）

（2025年3月末見込み）

大分類	先端サービス項目	実施状況	先端的サービスの状況
建設工事現場内外の移動の円滑化	①データなどの活用による交通量予測に基づくピークシフト誘導	実施	・大阪広域データ連携基盤（ORDEN）を活用した先端的サービスの調査検討を実施（2024年9月AI交通量予測モデル構築） ・夢洲周辺の一般交通量や通行台数を分析・予測し、事前に万博工事車両の通行可能台数を把握して工事車両調整等を実証
	②位置情報及びAIカメラによる車両管理	概ね実施	・万博工事全体でAIカメラによる登録車両のナンバープレート自動照合を実施
	③カメラでの車両認識による入退場管理	実施	・万博工事全体でAIカメラによる登録車両の車両番号自動照合による入退場管理を実施
	④駅及び共同駐車場からのシャトルバス・デマンドバスの運転管理	概ね実施	・シャトルバスサービスは、万博工事全体で工区バス乗降場を設置し、咲洲・舞洲から夢洲各工区への建設工事関係者の通勤バスを運行（定時定路線）
	⑤建設工事現場内及び夢洲内でのパーソナルモビリティの導入	実施せず	・導入に向けた試乗会等を実施するなど、検討を進めたものの導入に至らず

大阪スーパーシティ全体計画の推進状況について（先端的サービス）

夢洲コンストラクション

（2025年3月末見込み）

大分類	先端サービス項目	実施状況	先端的サービスの状況
建設工事・資材運搬の円滑化	⑥BIM/CIMなどを活用した建設工事の効率化	実施	・製作施工、資材管理にBIMデータを活用 ・BIMモデルの工程情報を利用した工事進捗の可視化・管理システムを万博工事に適用 ・万博工事全体をメタバース化するCPS（サイバーフィジカルシステム）を一部導入
	⑦データ及びセンシングによる局所的な気象予測	実施	・建設工事向けAI気象予測サービスを実施 ・実証を経て、2025年度にサービス販売を予定
	⑧ドローンを活用した測量・工事管理	実施	・ドローンにて工事管理（施工状況確認・記録等）を実施
	⑨ドローンによる建設現場の見守り	実施	・ドローンによる工事管理、建設現場の見守り等を実施（自律型のAIドローンも活用）
	⑩ドローンによる資材などの運搬、作業現場域内の高所などへの資材配送	概ね実施	・咲洲～夢洲間による資機材海上搬送（レベル3（目視外）飛行）の実証を実施 ・3D都市モデル×BIMを活用した陸上自動搬送（ドローン自動搬送連携実証を実施）
	⑪シャトルバスを活用した資材運搬（貨客混載）	実施せず	・シャトルバスについては、万博工事全体で工区バス乗降場を設置し、咲洲・舞洲から夢洲各工区への建設工事関係者の通勤バスを運行（定時定路線）（貨客混載については、実証等に取り組んだが、工事関係者用駐車場が夢洲内に整備されたことで、必要性が生じていない状況）
	⑫遠隔型自動運転ロボットを用いた物資運送	概ね実施	・自動搬送車両・サービスロボットを用いた資機材搬送について、建設現場での実証・試験適用を継続



ドローンでの高所確認（㈱竹中工務店提供）

大阪スーパーシティ全体計画の推進状況について（先端的サービス）

夢洲コンストラクション

（2025年3月末見込み）

大分類	先端サービス項目	実施状況	先端的サービスの状況
建設作業員の安全・健康管理の円滑化	⑬AIによる顔認証での建設作業員の入退場管理	実施	・万博工事全体で顔認証技術による敷地共通の入退場管理システムを適用
	⑭バイタル情報及び位置情報によるリアルタイムでの安全・健康管理	実施	・バイタル情報及び位置情報によるリアルタイムでの安全・健康管理を実施 ・作業所ごとの暑さ指数を可視化できるシステムにより、現場チャットアプリにて管理者、作業員にアラートを発報 ・休憩場所に設置したAIカメラにて、作業に行こうとする作業員の熱中症リスクを判定
	⑮建設資機材の位置情報及びカメラ画像を活用した建設現場の安全管理	実施	・カメラ画像を活用した建設現場の安全管理を集中管理モニター室を設置して実施 ・Webカメラを設置して、危険個所の監視を実施 ・サーモグラフィカメラによる現場内の高温危険エリア管理（ドローン活用）



工事現場入場時の顔認証の様子（株大林組提供）

大阪スーパーシティ全体計画の推進状況について（先端的サービス）

大阪・関西万博

（11サービス中 実施:6件、事業内容を変更し実施:5件）

（2025年3月末見込み）

大分類	先端サービス項目	実施状況※	先端的サービスの状況
大阪・関西万博で体験する近未来の医療・健康サービス	①ヘルスケアアプリ	事業内容を変更し実施	・アプリを2025年2月リリース。パビリオン体験に必要となるニックネームや生年月日、性別等の登録やパビリオンでの体験履歴の記録などのサービスを提供（見込み） 
	②まち中のスキャンマシン	事業内容を変更し実施	・当該スキャンマシンの名称を「カラダ測定ポッド」とした（「ミライへのゲート」ゾーンに設置） ・パビリオン来館者には、健康データを測定する「カラダ測定ポッド」に入っただき、心血管や筋骨格、肌・髪等の測定したデータをもとに生み出される25年後の「ミライのじぶん」アバターとともに、2050年の「ミライの都市生活」の体験を提供
	③都市移動用のモビリティ	事業内容を変更し実施	・当該モビリティの名称を「ミライのライド」とした（「ミライへのゲート」ゾーンに設置） ・当初予定していた健康データの測定は、②まち中のスキャンマシン（カラダ測定ポッド）で実施
	④ミライのフード体験	事業内容を変更し実施	・当該コンテンツの名称を「パーソナルフードスタンド」とした（⑤ミライのヘルスケア体験の1コンテンツとして展開） ・パビリオン来館者に質問に答えてもらうことで、食に関するアドバイスやサンプル提供等を実施
	⑤ミライのヘルスケア体験	実施	・食や美容、フィットネス等をテーマとした協賛企業による様々な展示コンテンツを展開
	⑥ミライの医療	実施	・当該展示の名称を「ミライの都市」とし、医療のみならず、住まいや公共空間を含め様々な観点から体験できるゾーンとして、協賛企業による様々な展示コンテンツを展開

※ヘルスケアアプリの先行リリースを除き、4月13日（日）からの万博開催期間に実施

大阪スーパーシティ全体計画の推進状況について（先端的サービス）

大阪・関西万博

（2025年3月末見込み）

大分類	先端サービス項目	実施状況※	先端的サービスの状況
大阪・関西万博における自動運転車	⑦万博会場へのアクセスの一部において、EV（電気）バスなどの自動運転（レベル4相当）を公道で実施	実施	・バス事業者において車両の改造等を進めるとともに、自動運転に係るインフラを整備し、万博開催時の走行ルートで実証実験を実施 ・2025年4月よりサービス提供開始 〔新大阪駅・大阪駅ルート〕 〔舞洲駐車場～万博会場〕 
	⑧万博会場内の移動の一部において、EV（電気）バスの自動運転（レベル4相当）を走行中給電などの新技術を搭載し実施	実施	・バス事業者において車両の改造等を進めるとともに、自動運転に係るインフラを整備し、万博開催時の走行ルートで実証実験を実施 ・2025年4月よりサービス提供開始 （万博会場内の外周道路）
大阪・関西万博における空飛ぶクルマ	⑨大阪市内、関西の主要空港、観光地を結ぶアクセス整備を、空飛ぶクルマの社会実装で実現	実施	・万博において遊覧飛行や2地点間運航などを実施予定 ANAホールディングス/Joby Aviation Inc.: 湾岸周辺エリアの飛行 Soracle（住友商事・日本航空のJV）: 会場－舞洲大阪ヘリポート 丸紅: 会場－尼崎フェニックス SkyDrive: 会場－中央突堤 
MaaSによる移動の円滑化	⑩OSAKAファストパス（仮称）	事業内容を変更し実施	・これまでの実証等を経て、万博時における大阪市内の渋滞緩和に寄与するため、駐車場事業者や商業施設等と連携したパークアンドライド推進施策の実装に向けて、事業者において取り組むよう努めているところ ・具体的には、大阪市内の大型イベントへの来場者を対象に、大阪市外の提携駐車場に駐車し、公共交通機関でイベント会場へ移動すると、インセンティブとして特定の大型商業施設で利用できるプレミアム付きのデジタル商品券を購入可能とする方向で調整中
	⑪関西MaaS協議会によるMaaSサービス	実施	・2023年9月5日に関西・鉄道7社が共同開発したアプリ「KANSAI MaaS」をリリース。2024度には万博シャトルバスチケットの販売開始やQR電子チケットの強化を実施 ・引き続き関西MaaS協議会により観光、交通に関する電子チケット等のサービスを実施

※⑦⑧⑨は、4月13日（日）からの万博開催期間に実施

大阪スーパーシティ全体計画の推進状況について（先端的サービス）

うめきた 2 期

（12サービス中 実施: 9 件、未実施: 3 件）

（2025年3月末見込み）

大分類	先端サービス項目	実施状況	先端的サービスの状況
ヒューマンデータ利活用に資するプラットフォームの提供	①ヒューマンデータとAI分析などによるエビデンスに基づく健康増進プログラム	実施	・2025年3月21日開業の「うめきた温泉 蓮」において、デジタルと健康・医療・ウェルビーイングを掛け合わせたサービスを提供 （計測データの履歴などを確認でき、症状や目的に応じた過ごし方を提案するアプリも導入）  出典：うめきた温泉 蓮 Webサイト
パーソナルモビリティサービスのシェアサービス	②パーソナルモビリティによるエリアの回遊性やラストワンマイルの移動快適性の向上	実施	・2024年9月の先行まちびらき時に、電動マイクロモビリティのシェアリングサービス「LUUP」のポートを導入
先端技術を用いた公園内・建物内における施設管理、配送などのマネジメント高度化	③画像解析を用いた施設管理（AIカメラやビーコン、センサーなど）	実施	・AIカメラや3Dモデルの活用等による維持管理・運営業務の効率化等に向けて、実証実験を実施（2024年度～2026年度予定）
	④ICTを活用した「みどり」管理（ICT、ロボットなどの活用）	未実施	・公園全面開業（2026年度予定）以降のサービス実証に向け、うめきた公園の植栽管理業者とともに、サービス内容等について協議・準備中

大阪スーパーシティ全体計画の推進状況について（先端的サービス）

うめきた 2 期

（2025年3月末見込み）

大分類	先端サービス項目	実施状況	先端的サービスの状況
リアルとデジタルの融合した都市空間 = Parkness を実現するための DX 推進	⑤デジタルサイネージやLEDビジョンなどを用いた感性をシェアする空間の創造	実施	・公園内及び公園施設にデジタルサイネージを設置し、運用開始
	⑥ミラーワールドを構築し、MR技術により現実と重ね合わせることで、絶景・癒し・ホラーなど、多種多様なテーマの世界を体験できるイベントを検討	実施	・うめきた公園を舞台に、現実世界と仮想空間が融合した新たな空間エンターテインメントプロジェクト 「ミラージュ大阪」を実証中（～2025年12月31日） 
	⑦Social Goodな活動を行った会員に対し、公園で提供するサービスに利用できるポイントの発行	未実施	・2024年度、うめきた公園等において、クリーンアップ活動の実証実験を実施（アプリを介し、参加者に対してまちの商業施設等で使えるポイントの進呈） ・上記のほか、2022年度国土交通省スマートシティ実装化支援事業における実証内容も踏まえ、実施可否を含め継続検討予定（2025年度以降）
	⑧来街者に対する混雑状況などの提供	未実施	・2022年度国土交通省スマートシティ実装化支援事業における実証内容を踏まえて、実施可否を含め継続検討予定（2025年度以降）
	⑨都市公園の行為許可・占用許可などの行政手続きのオンライン化	実施	・占用許可、設置許可については、大阪市においてオンライン化対応済み ・行為許可については、オンライン化するとともに、支払い手続きのキャッシュレス化により、効率的に業務を推進

出典：ティフォン(株) Webサイト

大阪スーパーシティ全体計画の推進状況について（先端的サービス）

うめきた 2 期

（2025年3月末見込み）

大分類	先端サービス項目	実施状況	先端的サービスの状況
リアルとデジタルの融合した都市空間＝Parknessを実現するためのDX推進	⑩リアルタイム・オンラインサービスを支える大容量通信網（ローカル5Gなど）の整備	実施	・キャリア5GやWi-Fi等による通信環境を整備 （今後、状況変化等（新たな利用者ニーズなど）が生じた場合、ローカル5G等適切な通信環境について検討）
	⑪先端的な技術や先駆的サービスを通じた「様々な体験価値」を市民や来街者に提供し、市民のQoL向上とライフデザインイノベーションを実現する環境の整備	実施	・先行まちびらき記念のオープニングイベント（3日間で約50万人来場）をはじめ、定期的なイベントとして、「YOSETE UMEKITA」（芝生で音楽・ダンス等を楽しむ企画）や、「UMEKITA PUBLIC SCOOP」（アフター5等に気軽に参加できる講座・体験型プログラム）等を実施中 ・2024年度内閣府調査事業として、キッチンカーによる提供サービス拡大に向けた調査を実施 （11月に実証イベント実施済、3月末に実施成果をとりまとめ）
駅を活用したまちなか・便利なヘルスケア環境の構築	⑫Station Health Care	実施	・大阪・関西万博の大阪パビリオンへの協賛の展示物として「カラダ測定ポッド」を大阪主要駅に設置 ・これを活用してパビリオンが健康データを取得していく見込み